本当の人助けとは

恵庭市立恵み野中学校　二年　山根　凛桜

皆さんは「税金」と聞くと何を思い浮かべるだろうか。物を買った時にかかる。消費税や私たちが使っている教科書や公共施設なども「税金」が関わっている。

そんな「税金」だが、消費税の値上げや給料を受け取れば所得税がかかるなど、不満の声が数多く挙がっている。私も「税金」にはただ納税者の負担を増やす、厄介者だと感じていた。この作文を書くまでは。

私が税金による考え方が変わったのは、母が私を出産した時の出来事である。母は自然分娩ではなく切迫早産だったので、早産の可能性が高く、入院生活をしていた。

そのせいか、私は頭部が大きく生まれてしまい、無呼吸発作を起こしていた。無呼吸発作とは、二十秒以上呼吸を停止してしまうことだ。さらに、最悪の場合、死に至るケースもあることから私はＮＩＣＵ（新生児集中治療室）に入院することになったのだ。その時に心配になったことは、「入院費」だった。ＮＩＣＵは医療スタッフが二十四時間体制で心拍数や人工呼吸の管理などを行う場所のため、一日に十万円ほどかかると知った母は「入院費だけでそんなにお金がかかるのはさすがに厳しい。おむつ代やベビーカーなど買わなきゃいけない物はたくさんあるのに。」と思っていたらしい。

しかし、父が、病院から話があり「未熟児養育医療制度というのがあるので申請していただくと入院費用は無償になりますよ。」という説明を聞いた時は、本当に助かったと言っていた。手続きもスムーズにいき、私は無事に退院することができた。

私は、「未熟児養育医療制度」にかかるお金はどこからでているのか調べてみると驚く事実を知った。なんと「税金」からその費用がでているのだ。私は「税金の使い道」と聞くと、救急車の無償化や公共サービスなどといった目に見えている物だけと思っていた。しかし、「税金」は予防接種や災害復旧、年金など、私達がまだあまり実感していないことだが、目には見えていない、困っている人を「税金」によって救うことができるなら厄介者ではなく、人助けのバトンを広げているのだなと思う。

現在では、少子高齢化が予測より進み、さまざまな影響が及ぼされているが、安心して子供を産むには、手厚いサポートや支援がある体制を利用するだけではなく、「税金」という言葉の向き合い方を変えていく必要があるのではないか。